

国際華語特別集会メッセージアウトライン

2012年1月25日—26日

主題：神聖な啓示の心臓部

メッセージ 4

ピリピ人への手紙——キリストをすべてとすることによって彼を経験する

聖書：ピリピ 1:19-21. 2:5. 3:8-9, 13-14, 20-21. 4:8, 11-13

ピリピ 1:19-21 というのは、あなたがたの祈り求めることと、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給を通して、このことがわたしにとって救いとなることを知っているからです。20 そこで、わたしの切なる期待と希望は、わたしがどんな事にも恥じることなく、かえっていつものように、あらゆる事で大胆になって、生きるにも死ぬにも、今なおキリストが、わたしの体において大きく表現されることです。21 なぜなら、わたしにとって生きることはキリストであり、死ぬことは益であるからです。

2:5 キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしまさう。

3:8-9 しかしさらに、わたしはまた、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、わたしはすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくたと勘定します。それは、わたしがキリストを獲得するためであり、9 そして、キリストの中に見いだされるためです。それは、律法に基づくわたし自身の義を持つのではなく、キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に基づく神からの義を持って。

13-14 兄弟たちよ、わたしはまだ自分自身、捕らえたとは思っていません。ただ一つの事、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、14 キリスト・イエスの中でわたしを上を召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています。

20-21 しかし、わたしたちの国籍は天にあります。そこから救い主、主イエス・キリストが来られるのを、わたしたちは熱心に待ち望んでいるのです。21 キリストは、万物を彼ご自身に服従させることができる彼の活動によって、わたしたちの卑しい体をも変貌させ、それを彼の栄光の体に同形化してくださいませ。

4:8 最後に、兄弟たちよ、何であれ真実なこと、何であれ誉れあること、何であれ義なること、何であれ純粋なこと、何であれ愛らしいこと、何であれ好評なこと、またもし何らかの徳があり、何らかの称賛があるなら、これらのことを考慮しなさい。

11-13 わたしは乏しいから言うものではありません。というのは、わたしはどんな境遇でも、満ち足りることを学んだからです。12 わたしは卑しくなる道を知り、また豊かになる道も知っています。あらゆる事において、またいっさいの事柄において、わたしは飽くことにも飢えることにも、豊かであることにも乏しくあること

にも、秘訣を学びました。13 わたしは、わたしを力づけてくださる方の中で、いっさいの事柄を行なうことができるのです。

I. わたしたちはキリストをわたしたちの生活とする必要があります——ピリピ 1:21 :

- A. パウロの生活は、キリストを生きることでした。彼は律法を生きようとしたのではなく、キリストを生きようとし、律法の中に見いだされようとするのではなく、キリストの中に見いだされようと思いました (3:9)。
- B. キリストが彼の中に生きておられたので (ガラテヤ 2:20)、彼はキリストを生きました。彼とキリストは、一つの命と一つの生活を持っていました。彼らは一人の人として共に生きました。
- C. キリストに対する正常な経験は、彼を生きることであり、彼を生きるとは、環境がどうであっても、常に彼を大きく表現することです。

II. わたしたちはキリストをわたしたちの表現とする必要があります——ピリピ 1:19-20 :

- A. 使徒の肉体における苦難の中で、キリストは大きく表現されました。すなわち、キリストは、(無制限に)偉大であると示され、あるいは宣言され、高く上げられ、ほめたたえられました。
- B. 使徒の苦難は彼に機会を与えて、キリストの無限の偉大さを表現させました。
- C. どんな境遇の下でもキリストを大きく表現することは、キリストを経験し最高の享受を持つことです。

III. わたしたちはキリストの思いをわたしたちの思いとする必要があります—— 2:5 :

- A. 「この思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい」は、「これをあなたがたの中で思いなさい」と訳すこともできます。「この」は、3節の思うことと、4節の目をとめることを指しています。
- B. キリストがご自身をむなしくし、奴隷の形を取り、人としての有り様で見いだされ、ご自身を低くした時にキリストの中にあったのは、このような考え、このような思いでした—— 7-8 節。
- C. そのような思いを持つために、わたしたちはキリストの心の深みの中で彼と一である必要があります (1:8)。キリストを経験するために、わたしたちはこの程度にまで、すなわち彼の優しい内側の感覚と彼の考えの中で、彼と一である必要があります——参照、出 21:1-6。

IV. わたしたちはキリストをわたしたちの生かし出された義とする必要があります——ピリピ 3:9 :

- A. パウロは彼の回心の時に、律法と以前の宗教から、キリストの中へと移し入れられ、「キリストの中にある人」となりました——Ⅱコリント 12:2。
- B. パウロはキリストを経験して、キリストの中にある人として人に見いだされ、自分で律法を守ることからの義を持つのではなく、キリストにある彼の信仰を通しての神からの義を持ちました。それは、パウロから生かし出されて、義として表現されたキリストご自身です——ピリピ 3:9。
- C. これはパウロに義の務めを与えました。それは、キリストを生かし出すこと、またキリストの真の表現です——Ⅱコリント 3:9。

V. わたしたちはキリストを知る知識を卓越したものと考えする必要があります——ピリピ

3:8 :

- A. キリストを知る知識の卓越性は、彼のパースンの卓越性から来ます——参照、 I ペテロ 1:8. 2:7 前半。
- B. 神がキリストをパウロに啓示した時（ガラテヤ 1:15-16）、キリストの卓越性、超越性、無上の尊さ、ずば抜けた価値が、律法の卓越性をはるかにしのぐものであることを、パウロは見ました。
- C. キリストに対するパウロの知識は、キリストを知る知識の卓越性という結果になりました。このゆえに、彼は律法や、律法にしたがって設立された宗教だけでなく、すべての事柄を損失と勘定しました。

VI. わたしたちはキリストをわたしたちの目標とする必要があります——ピリピ 3:13-14 :

- A. パウロの目標は、最も満ち満ちた方法でキリストを享受し獲得することでした。
- B. キリストを最も満ち満ちた程度まで獲得するために、パウロはユダヤ教における自分の経験を放棄しただけでなく、キリストに対する自分の過去の経験の中にとどまろうとしませんでした。自分の過去の経験を忘れず、そこにとどまることは、それがどんなに真のものであったとしても、キリストをさらに追い求めることを妨げます。
- C. パウロは賞を得るために、目標に向かって追い求めていました。その賞は、千年王国におけるキリストに対する極みまでの享受です。これは、新約のレースの勝者に対する褒賞です—— I コリント 9:24-27。

VII. わたしたちはキリストをわたしたちの美德とする必要があります——ピリピ 4:8 :

- A. 主の中で喜ぶことは（4 節）、5 節から 9 節に挙げられている卓越した美德を持つ秘訣です。
- B. 平安の神は、8 節で述べられているすべての美德の源です。彼と交わり、彼にわたしたちと共にいていただくことによって、これらすべての美德は、わたしたちの生活の中で生み出されます。

VIII. わたしたちはキリストをわたしたちの力とする必要があります—— 13 節 :

- A. パウロはキリストの中にある人であり（II コリント 12:2）、人によってキリストの中に見いだされることを願っていました。今や彼は、自分を力づけてくださるキリストの中で、いっさいの事柄を行なうことができると宣言しました。
- B. これは、キリストに対するパウロの経験に関する、すべてを含む、結論の言葉です。それは、ヨハネ第 15 章 5 節における、わたしたちと主との有機的な関係についての主の言葉、「わたしを離れては、あなたがたは何もすることができない」の裏返しです。
- C. 「力づける」のギリシャ語は、「内側で活動的にさせる」を意味します。キリストはわたしたちの中に住み（コロサイ 1:27）、外側からではなく、内側からわたしたちを力づけ、活動的にさせます。そのように内側で力づけることによって、パウロはキリストの中でいっさいの事柄を行なうことができました。

IX. わたしたちはキリストをわたしたちの秘訣とする必要があります——ピリピ 4:11-12 :

- A. 「わたしは……秘訣を学びました」は、文字どおりには、「わたしは入門しました」

を意味します。この比喻は、人が秘密結社に入門して、その基本原則を教えられることを言います。

B. パウロはキリストに回心した後、キリストとキリストのからだの中に入りました。

C. そして、彼はどのようにキリストを命とし、キリストを生き、キリストを大きく表現し、キリストを獲得し、召会生活を持つかの秘訣を学びました。これらすべては基本原則です。

X. わたしたちはキリストをわたしたちの期待とする必要があります—— 3:20-21 :

A. わたしたちの体の変貌は、神の救いの究極的完成です。神は彼の救いにおいて、まずわたしたちの霊を再生しました（ヨハネ 3:6）。今、彼はわたしたちの魂を造り変えつつあります（ローマ 12:2）。そして最終的には、彼が戻って来て彼の聖徒たちを栄光化される時（8:30）、わたしたちの体を変貌させ、わたしたちの存在の三部分すべてをキリストと同じにします。

B. わたしたちは天から来る神の御子を待ち望んでいるので、わたしたちの将来は彼に焦点づけられています—— I テサロニケ 1:10。

C. わたしたちの生活は、この地上に望みがなくこの時代に積極的な運命がないこと、そしてわたしたちの望みが来たるべき主であり、彼がわたしたちの永遠の運命であることを表明します。

D. このことは、召会生活のためのわたしたちのクリスチャン生活を支配し、維持し、守ります。